

## (14)

氏名(生年月日)	ムラ 村	タ 田	ミヨ 洋	コ 子
本 籍				
学 位 の 種 類	医学博士			
学位授与の番号	乙第1013号			
学位授与の日付	平成元年 4 月21日			
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 2 項該当 (博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	超音波と内視鏡超音波による食道表在癌の進行度診断—組織学的評価と臨床経過からの評価—			
論文審査委員	(主査) 教授 羽生富士夫 (副査) 教授 小幡 裕, 高尾 篤良			

## 論 文 内 容 の 要 旨

## 目的

食道癌のうち、粘膜下層に留る癌すなわち表在癌の中には、約40%にリンパ節転移陽性例がありこれらの予後は進行癌と同様悪い、そこでこれら表在癌をリンパ節転移のない早期癌と区別診断することは治療方針決定に重要である。即ち、リンパ節転移陽性なら、根治性の高い手術を、転移のない場合は縮小手術を、場合によっては非観血的治療法の適応となる。今回、内視鏡超音波ならびに超音波診断法を使用し、食道癌の術前進行度診断を行い組織診断と比較評価した。またこれら症例の臨床経過を観察し、診断の臨床の評価をした。

## 対象および方法

検討対象は、1983～1987年8月までに内視鏡超音波検査を施行した食道癌のうち、深達度粘膜下層(sm)までと診断した62例と進行癌と診断したが実際はsmであった4例の合計66例である。66例の治療内容は、55例に食道切除手術(右開胸38例、左開胸9例、非開胸8例)が、11例にレーザー治療、放射線照射、化学療法がなされた。組織学的評価は、深達度診断では、切除例55例、リンパ節転移診断は、後縦隔全域、腹部リンパ節の郭清がなされた38例を対象に行った。癌の深達度、後縦隔リンパ節の検索には内視鏡超音波装置を用いて行った。頸部、腹部リンパ節転移の検索には、通常の超音波装置を用いて行った。深達度、リンパ節診断は、次の基準により判定した。

## 1) 癌深達度の診断基準

内視鏡超音波では、正常食道壁は5層として描出される。深達度診断は、癌腫によって破壊された最外層とした。

## 2) リンパ節転移診断基準

リンパ節の大きさの測定、超音波像と組織所見の対比より次の3条件のうちの2つ以上の条件を満たすものを転移陽性とした。①類球形とくに短径が5mm以上、②境界明瞭、③内部エコーが不均一。

## 結果

## 1) 病理組織診断との対比からの超音波診断の評価

深達度診断の正診率は、44/55 (80%)であった。部位別リンパ節転移の正診率は、頸部で91%、腹部で97%、後縦隔で98%であった。以上より系統的郭清を行った38例の進行度診断は、深達度が固有筋層以上であった3例を除くとリンパ節転移陰性の表在癌である早期癌の正診率は17/27 (68%)、転移陽性表在癌の場合は6/8 (75%)であった。

## 2) 臨床経過からみた進行度診断の評価

早期癌と診断した41例では、リンパ節再発が認められず術前診断と臨床経過が良く一致した。転移陽性表在癌と診断した21例では17例に術前指摘した部位にリンパ節転移を認めた。

## 結論

超音波、内視鏡超音波は、食道表在癌の治療方針決定に有用であった。

## 論文審査の要旨

近年、食道の表在癌は、増加傾向にある。遠隔成績からみて、リンパ節転移を有する表在癌は、進行癌と全く同様の治療法が選択されねばならず、リンパ節転移のないそれは、縮小手術あるいは非観血的治療が許される。従って表在癌の進行度、とくに深達度とリンパ節転移の有無の診断が必要不可欠である。本研究は、内視鏡超音波、超音波を用い、その診断能を組織学的ならびに、臨床経過より評価したもので、臨床上、学術上価値あるものと認める。

## 主論文公表誌

超音波と内視鏡超音波による食道表在癌の進行度診断—組織学的評価と臨床経過からの評価—  
日本消化器外科学会雑誌 第22巻 第2号  
195-204頁 (平成元年2月1日発行)

## 副論文公表誌

- 1) 食道癌における腹腔内リンパ節の超音波診断の検討  
日消外会誌 14 (7) : 1005-1015, 1981
- 2) 消化管疾患—食道 (食道癌を中心に)  
Medicina 22 (12) : 2322-2325, 1985
- 3) 食道癌における内視鏡超音波診断の有用性  
日気食会報 37 (5) : 378-385, 1986
- 4) Endoscopic ultrasonography in the diagnosis of esophageal Carcinoma (内視鏡超音波に

よる食道癌診断)

Surgical Endoscopy 1 (1) : 11-16, 1987

- 5) The value of ultrasonography for preoperative staging of esophageal carcinoma (食道癌進行度診断における超音波の価値)  
Disease of the Esophagus (Siewert JR, Hölischer AH eds) pp 152-158, Springer-Verlag, 1987
- 6) 食道疾患の内視鏡超音波診断  
腹部画像診断 8 (2) : 73-77, 1988
- 7) Evaluation of endoscopic ultrasonography for the diagnosis of submucosal tumor of the esophagus (内視鏡超音波による食道粘膜下腫瘍診断)  
Surgical Endoscopy 2 : 51-58, 1988